

2025 年度自己点検・自己評価結果

(2026 年 5 月) 健和看護学院

◇概況

看護学校をめぐる状況は大変厳しい。新入生確保の課題は、少子化・大学進学化・看護職を目指す学生の減少などが要因となっており、当校も年々受験者・入学数は減少している。しかし、これは当校だけでなく、全国的傾向となっている。北九州市内等の看護専門学校でも厳しい状況となっている。また、入学学生の学力の低下・精神面の不安定・家庭環境等の理由で再履修生が増加している。

◇2025 年度の特徴

○現況: 学校名: 健和看護学院 住所: 北九州市小倉北区大手町 15 番 1 号

学生数および教職員

	学生総定員	学生現数	再履修生数	男子	教員現数	その他
2025.4	240	203	15	40	19	学院長1・事務長1・非常勤事務2
2026.3	240	201	14	39	19	学院長1・事務長1・非常勤事務2
2026.4	240	179	15	37	18	学院長1・事務長1・非常勤事務2

○国家試験合格率: 92.9% 71 名受験 5 名不合格 (25 年度 88.6%) 既卒生: 50% 受験地: 福岡

昨年度より合格率は上昇したが、全国平均 94.1% (昨年 95.9%) を下回っている。既卒生は全国平均 32% (昨年 44.9%) であり厳しい状況となっている。不合格者の学習状況を振り返ると、低学年から学習習慣が定着しておらず、3 年次になってからも模擬試験結果は伸びなかった。今年度の特徴として年明け、国家試験前まで補習をしていた学生が 3 名いた。うち 1 名は不合格となった。低学年時より学習方法の指導や指導の継続性が重要である。各学年学習推進委員会を活用し取り組んでいく。

○旧カリキュラムの学生は今年度で全て卒業した。

○入試の状況は、少子化、大学進学、就職の影響を受け、26 年度入学生は 80 名定員で 49 名の入学生となった。(昨年 60 名)。進路ガイダンス、高校訪問、オープンキャンパス、個別学校見学など行い、受験生確保に努めた。今後、大学全入時代となり、さらに専門学校の定数確保は厳しい状況となる可能性が高い。また、看護師を目指す人が減少していることもあり、地域(高校や小中学校など)に出向き、看護の魅力ややりがいを伝える必要がある。当法人には、看護学生を支援する委員会があり、高校生 1 日看護体験や高校生ボランティアを開催している。看護師を目指す学生を支援しながら、当校の魅力もアピールしていきたい。「健和看護学院」を知らないもしくは所在地を知らない学生が多い。小倉北区にあるということを知らない学生が多い。広報として建物に看板を設置予定としている。

○今年度も再履修生数が多い状況となった。学習不足が原因であるが、その理由としてアルバイトや生活管理の不十分さがあげられる。退学せず再履修を選択する学生は、看護師になりたいという願いを持っており、教員一同しっかりと支えていかなければならないと考えている。一方で、無断欠席・遅刻・欠課、授業中の私語や居眠り、スマホの使用等、学生としての姿勢を問われる学生もあり、保護者と協力しながら対応をしていく。

○再履修の科目数も増えていることから、授業料の納金にも影響し、学生が安心して勉学に取り組み環境を維持していくことが難しい状況もある。また各種奨学金等の申請者も年々増えており、経済的理由で学業を続けられなくなることはないよう、引き続き各関係機関からの情報提供を行うなど学費の援助に向けて取り組んでいく。

○学生自治会活動は、毎月学院と協議会を開催した。学院内の環境改善交渉や高等教育無償化に向けた活動を行った。民医連立看護学校の学生との交流や国会請願時にビデオで学生の意見を訴えた。自治会総会が長く開催出来ていなかったが、年度初めに開催できた。しかし年度末の総会が自治会員の数が足りず未開催となっている。新年度に開催予定。健康祭・学院祭に自治会としてホットドック販売やバザーの出店、健康祭舞台上で学校生活や自治会活動を紹介するなど地域へアピールすることができた。

○入学予定者に対して、eラーニングを実施しているが、25 年度は「BeNs」へ変更した。課題の遂行状況を把握し、進んでいない学生には個別に連絡を入れ指導した。「BeNs」は入学後も看護に関する学習が可能なシステムであり、継続的に活用していく。

◇評価概要

	評価項目	分析および課題
I	教育理念・教育目的 《評点 3.0 》 (24 年度 3.0)	当校は「すべての人々の生きる権利を守り、地域住民の要求に応える医療実践」「患者の立場に立った親切でよい医療」の実現と発展に寄与できる看護師の養成を行うために設立している。この設立の趣旨に沿って、教育理念・教育目的を改定、3つのポリシーを設定し、学校運営をすすめている。看護師養成所に求められる使命と健和看護学院としての特徴を踏まえた内容となっている。卒業時アンケート内で、卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)の到達状況を評価している。今年度は83%の回答率であり、95%~100%が「良くてきた」「できた」評価している。1.2年生学年到達目標自己評価を実施。回答率は1年88.8% 2年93%であり、多くの項目で「良くてきた」「できた」が90%を超える評価であった。3学年とも回答率が100%となっていないことが課題。新入生歓迎企画「梅のつぼみ」や九州沖縄看護学生企画「JWEL」、自治会活動などは、学生・教員ともに理念に基づいて取り組んでいる。
II	教育目標 《評点 3.0 》 (24 年度 3.0)	教育理念に基づき、教育目的・3つのポリシー・学年別到達目標を設定しており、一貫性は図られている。入学前から卒業までの目標を具体的に設定している。卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)や経験録によって、卒業時に獲得している能力や技術は確認することができる。
III	教育課程経営 《評点 2.8 》 (24 年度 2.8)	カリキュラムポリシーのもと教育課程を編成しており、構成された科目は理念や目的等と整合性はとれ、学生・教員共に理解している。しかし、教職員全体で一貫した教育活動を行っていることを明確に出来ず、評価をあげることが出来なかったが、常に会議等で教育活動について語り、検討している。昨年度から、学生の成長についての明確な指導に対し重きを置き、各学年の目標を定め、学習計画の立案、実施、評価を行っている。また、教育理念に基づき、地域と暮らし、社会福祉、社会保障等の内容から、生命の尊厳と人権を重んじる人間性豊かな看護師に育てることができている。教育課程は、医師、認定看護師等の講義が充実している。また、外部講師の授業アンケートを行い授業内容の改善に努めることを継続している。役職定年による異動により、領域によっては授業時間が50時間を超えていることもあるため、教員の育成も含め今後も検討が必要である。年度末には学年の到達目標の達成度を確認するアンケートを行い、課題が明確になったため教職員で共通認識し改善に向けて努力をしていく必要がある。また2025年度は旧カリキュラムの学生が卒業し、2026年度よりは全学年が新カリキュラムとなる。そのため、カリキュラム評価中であり、充実したカリキュラムになるよう微調整を検討している。実習については学生の看護実践体験の保障ができるよう教員、臨地実習施設や実習指導者と協働している。
IV	教授・学習・評価過程 《評点 3.0 》 (24 年度 3.0)	授業の展開過程については、シラバスに各科目の目標・内容を明示しており、授業内容に応じて、学生が理解しやすいように授業形態の工夫と進度の調整をしている。学生による授業評価を実施し、教員間で情報共有し次年度の授業評価に活かしている。年度末に各領域(科目・実習)の纏めをしており、今後の課題については領域が中心となり検討を進めていく。また、昨年度より、各学年の到達目標の自己評価を実施している。学習支援については3年間の学習支援計画をもとに、各学年で学生の状況に応じた学習支援を実施している。
V	経営・管理過程 《評点 2.9 》 (24 年度 2.9)	毎年活動方針を作成し、半年ごとに評価を行い明示している。養成所の管理運営は、学院運営会議や管理会で協議し、その内容は全職員で共有している。教育理念・目的を基に個々が作成した個人目標を基に、管理者が面接を実施(年3回)し質向上に努めている。新任教員については、県主催の看護教員養成講習会受講を計画的に進めていく。研究・研修の機会をもうけ学会・研修への参加を推奨している。

		経営面では定数 80 名の学生確保が年々厳しくなり、減収となっている。多くの方にオープンキャンパスに参加していただき入学へと繋げていくために、受験生だけでなく低学年層や社会人向けの内容を盛り込むなどの工夫が必要。社会的情勢を踏まえ、2024 年度にジェンダーレスを考慮した実習着へ変更、多目的更衣室の設置、学生便覧のハラスメント防止に関する規程に SOGI (性的指向・性自認) を追加した。2026 年度には「合理的配慮を伴う学生支援に関するガイドライン」を追加した。実習施設関連では、法人内外問わず学生指導に対する協力を得ている。
VI	入学 《評点 3.0 》 (24 年度 3.0)	アドミッションポリシー(入学者受け入れに関する方針)を設定し、募集要項やホームページ・学生便覧で述べている。25 年度は入学前教育 e ラーニング「BeNs」へ変更。入学前から入学生の基礎学力や学習習慣の状況が把握できるようになっている。その結果は入学後の教育に活用している。
VII	卒業・就業・進学 《評点 2.6 》 24 年度(2.8)	卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)の達成状況を、google フォームでアンケートを実施。昨年回答率は 79%・今年度は 83%に上昇した。設置法人へ就職した学生の状況は、教育委員会などで状況の把握はできる。設置法人外就職者の情報は、就職した施設からの訪問や入職した病院から近況を伝えるメッセージカードが送られてくる。そこから卒業生の情報を確認している。卒業生が就職した学校からの学校訪問は 7 件。
VIII	地域社会/国際交流 《評点 2.5 》 (24 年度 2.6)	大手町健康祭りと合同で学院祭を開催している。地域の方や看護に興味のある方などに学校生活の紹介や看護の取り組みを紹介できた。オープンキャンパス(4 回開催 148 名:高校生 100 名・保護者 48 名)・進学ガイダンスや職業紹介(26 か所 165 名)を実施または参加することで、地域社会への貢献につながっている。高校 1 年生へ「看護の紹介」の講義も行った。国際的視野を広げるための授業科目として、英語を 30 時間設定している。国際看護の授業では国連の取り組みを動画などで紹介し、国際的な医療の在り方を学ぶよう設定している。
IX	研究 《評点 1.0 》 (24 年度 1.3)	研究を補助する予算、体制はあるが、日常業務の多忙さから継続的に取り組むことができていない。民医連関連への報告発表は出来ているが、各領域の関連学会への投稿はできていない。積極的な自己研鑽や研究につながる活動となっておらず、今年度も改善ができなかった。そのため評価を下げた。特に専門領域での自己研鑽については強化する必要がある。

25年度自己点検・自己評価結果

